
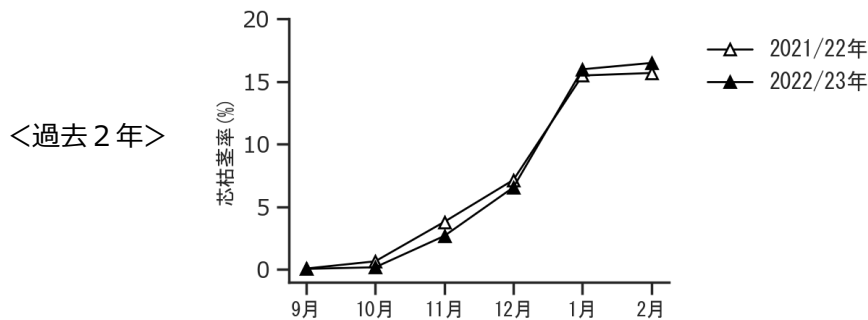
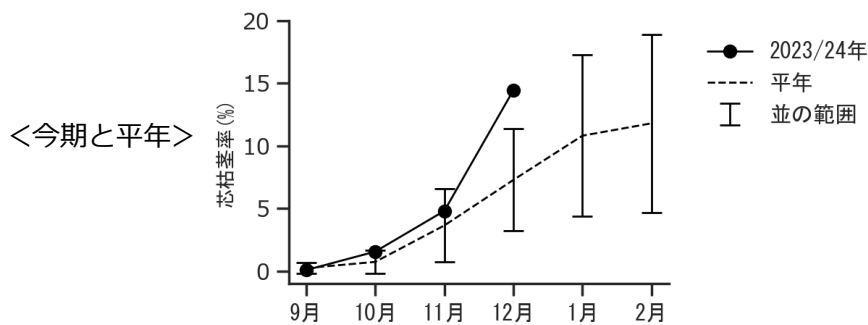


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ
- ・発生ほ場率95.0% (平年：93.0%)

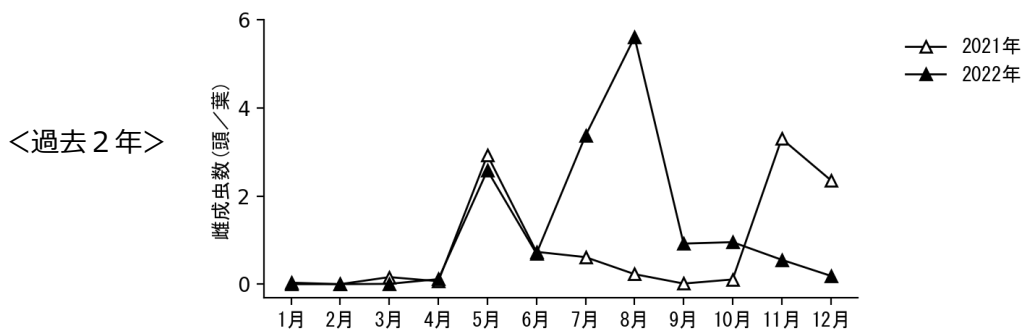
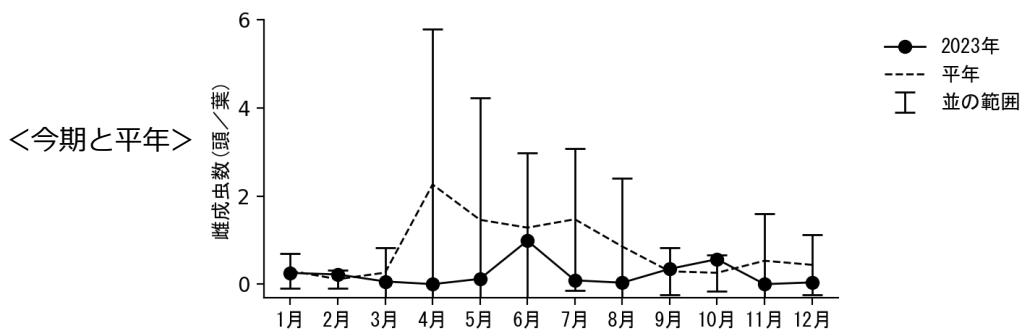
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：30.6%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

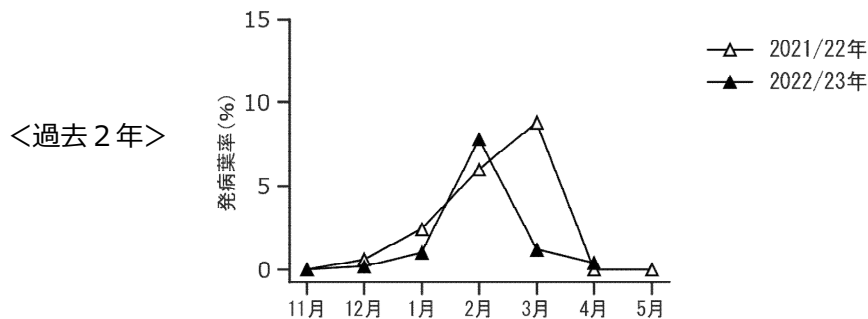
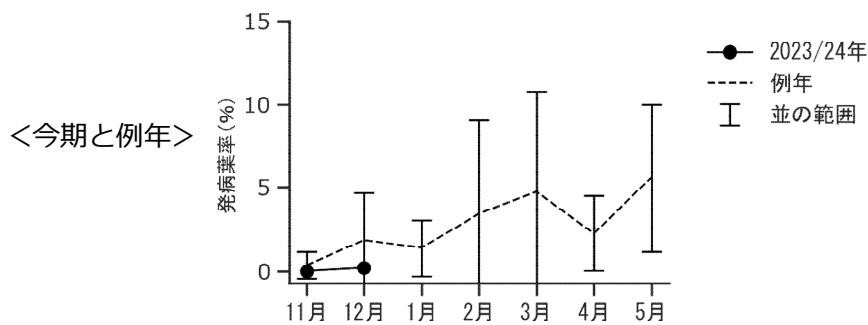


マンゴーツメハダニ

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	12 月の発生量 (例年比)	並	
予 報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (例年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率20.0% (例年：35.0%)

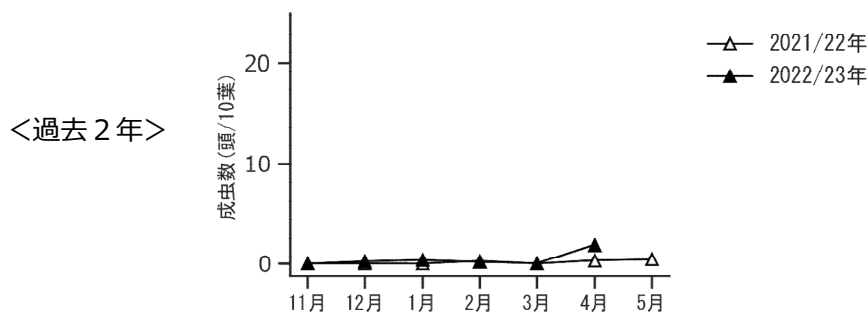
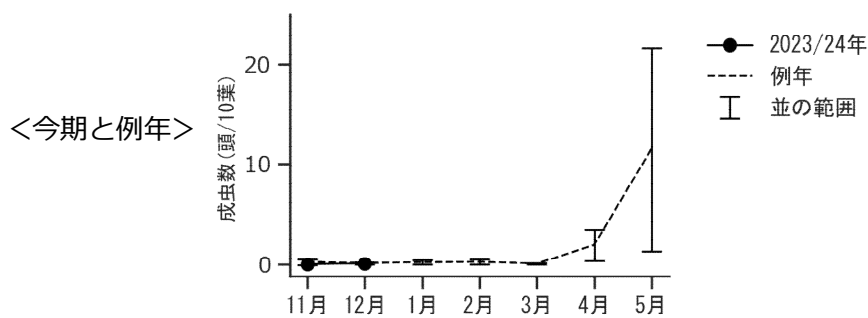
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (例年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
		1 月の発生量 (例年比)	並
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率60.0% (例年：25.0%)

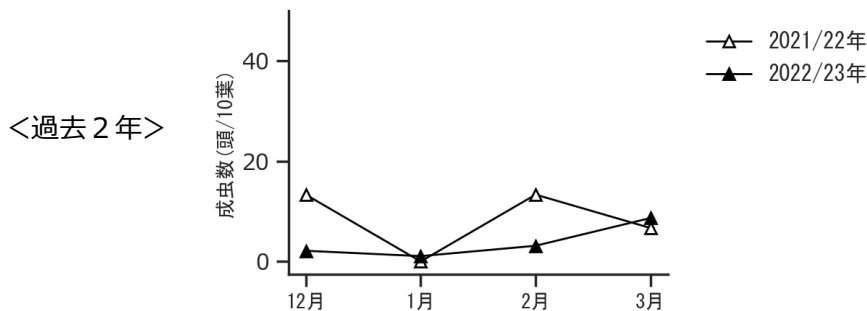
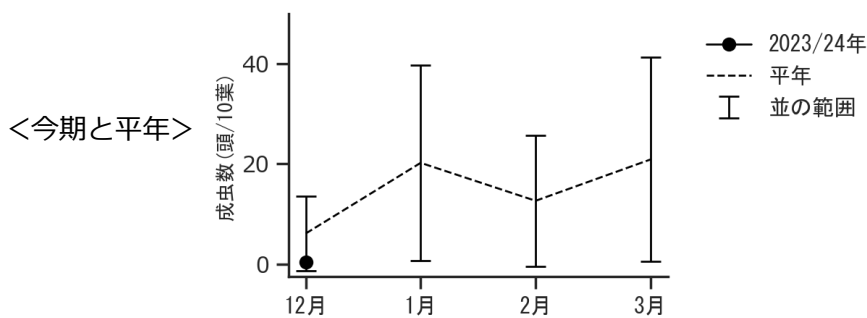
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① タバココナジラミ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率66.7% (平年 : 30.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

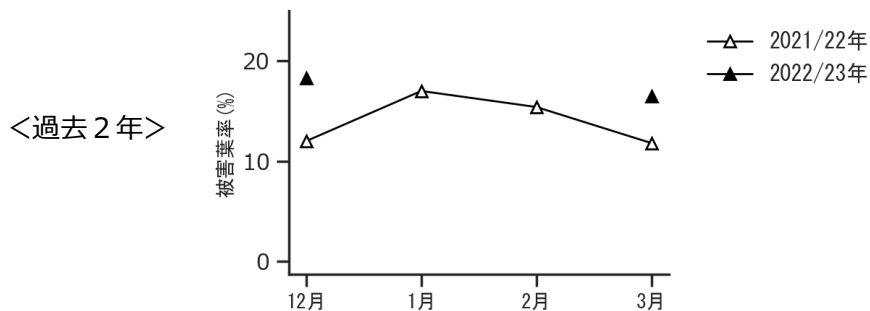
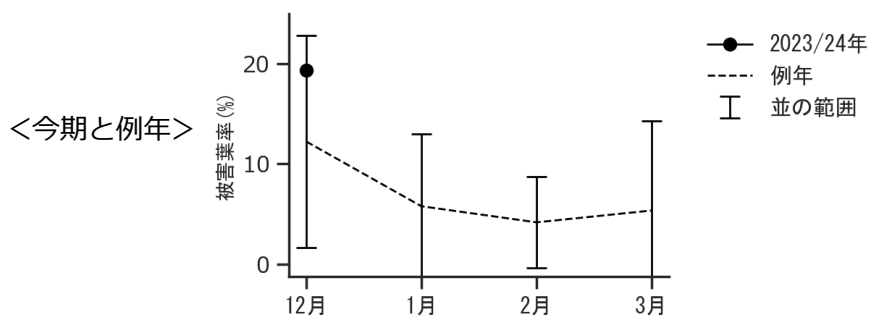


幼虫

作物	さやいんげん(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	② ハモグリバエ類			
調査結果	12 月の発生量 (例年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↓		
	1 月の発生量 (例年比)	並		
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

被害葉率の推移




・発生施設率100% (例年 : 77.1%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・野外に多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

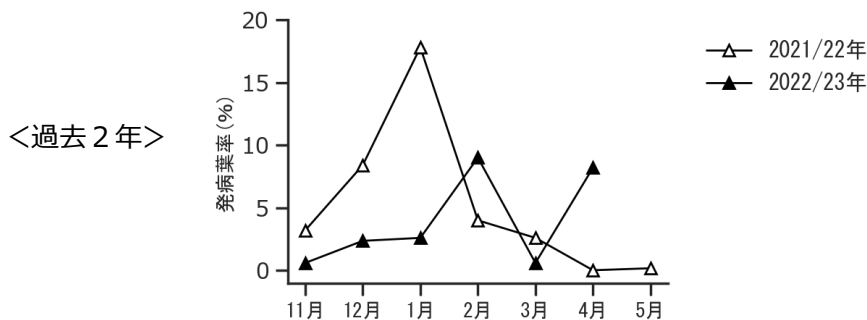
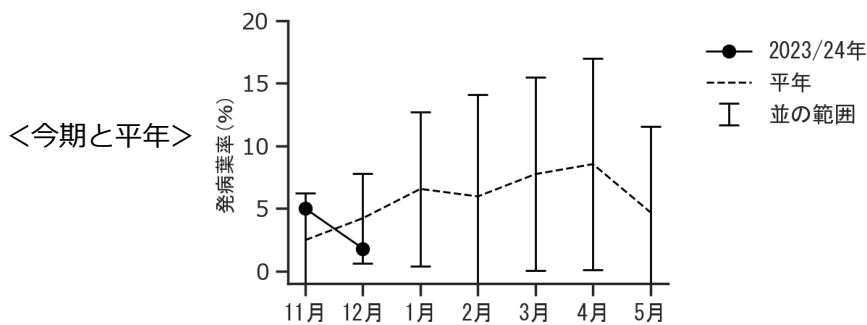


被害葉

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	↗		
		1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 47.3%)

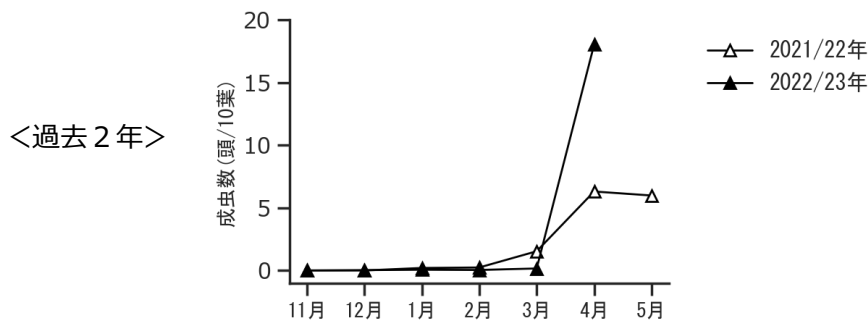
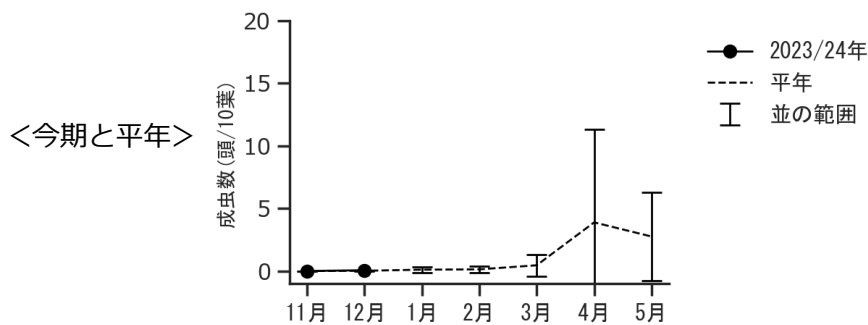
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	② タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率20.0% (平年：9.1%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

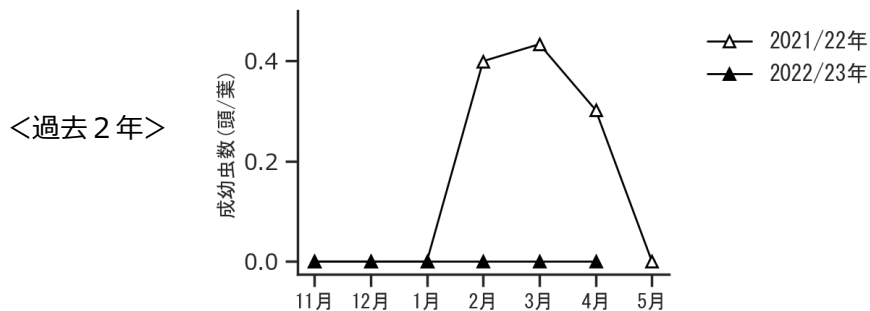
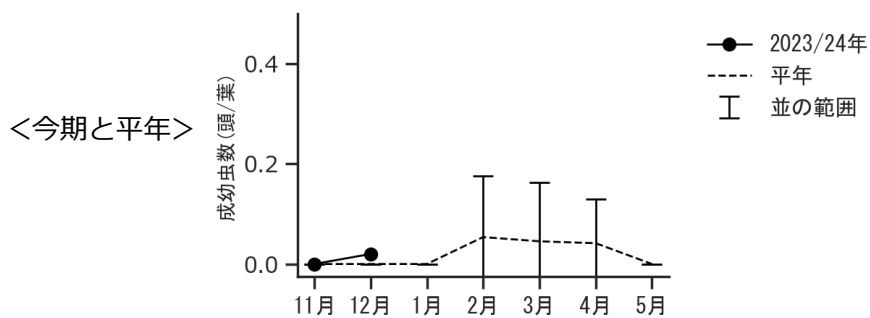


幼虫

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率20.0% (平年：0%)、一部施設で発生

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。